

編集後記

国際障害者年というたい文句ではじまった1981年の「総合リハ」も、あっというまに5月号をおとどけすることになった。そして国際的に、また、全国的に何か国際障害者年にふさわしい行事や将来の計画がなされたか考えてみると、あまり見あたらず、むしろ、我々の身近かなリハビリ医学教育面での最近の進歩が目立つぐらいである。

本号の特集は「医学教育」である。

リハビリ医学専門医制度が期せずして国際障害者年と同時に発足する事になったが、これは1963年に日本リハビリテーション医学会が設立され、多くの諸先輩の長年にわたる御努力と社会的趨勢によるものである。岩倉氏は専門医認定委員長の立場から専門医制度の成立するまでの経過と今後のビジョンをお書き下さった。また二木・上田両氏は欧米諸国の専門医制度の特徴を書いて下さったが、これは前者とあわせて我が国のリハビリ専門医のすすむ方向を国際的な視野から示唆するものである。

他のリハビリ医療専門職の教育に関して、芳賀氏は理学療法士・作業療法士について、氏がこれら教育の草分けの役割をはたされた関係から15年間の教育の変遷をのべておられる一方、最近のPT、OT養成校の急増による質の低下と、あと7～8年でPT、OTが

我が国の必要数を満たすことによる卒業生の就職難を懸念しておられる。澤村氏は義肢装具士の研修制度が具体化しつつあるも、労働省の技能検定制度が厚生省側と関係ない状態で、まさに日本の縦わり行政の縮図といえる。しかしながら、ここ数年来の我が国の義肢装具の研究蓄積はすばらしく澤村氏らの努力がさらに教育、資格制度の面で実ることを願ってやまない。

この他、リハビリ専門職として言語療法士、臨床心理士、ケース・ワーカーなど、リハビリ医療になくてはならないスタッフの身分制度と教育問題がある。その根本は日本の教育と医療行制がかならずしも平行して行われなところにあるが、臨床家の教育と研究の発展は臨床の場が与えられてはじめて可能となるものであるからして、早期の身分制度の確立が望まれる。これら職種の教育制度については号をあらためて特集する必要がある。

以上の特集の他に連載中の「講座」も興味深いものばかりである。また、本誌の読者数がましたためか研究報告の投稿も増え、今後は症例報告の欄などももうけてより一層の充実をはかるべく編集子一同努力するつもりである。

(千野 直一)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
沢 村 誠 志
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
武 智 秀 夫
田 中 照 子
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告(第9巻第6号)

特集 筋疾患の基礎

- 筋肥大と萎縮の調節機構……………ペンシルバニア大研究所 北 沢 俊 雄
- 筋の再生……………国立武蔵療養所 埜 中 征 哉・他
- 筋の生検：光顕および電顕所見……………横浜市大・整形 三 杉 信 子
- 筋疾患と血清酵素……………刀根山病院 谷 淳 吉
- 筋疾患における電気診断の役割と
その基礎……………都立神経病院・神経内科 廣 瀬 和 彦

研究と報告

- 長期にわたり経過を観察しえた
先天性前腕切断の3例……………横浜市大・リハ科 小 池 純 子・他

紹介講座

- 電動ベッドの操作形態に関する考察……………兵庫リハセンター 奥 英 久・他
- リハ医のためのリウマチ・膠原病入門
- 6. 強直性脊椎炎……………滋賀医大・整形 七 川 敏 次
- 活用すべきリハ関連諸制度
- 6. 医療・所得保障と税の減免……………都身障センター 磯 部 博 明
- 動作訓練法について
- 3. 動作訓練法の手法……………北九州総合リハセンター 高 松 鶴 吉

一頁講座

- リハにおけるコンピュータの応用
- 6. ファイリングと検索……………労災義肢センター 土 屋 和 夫